

資料4-1

# 生活支援体制整備事業の現状 について

平成30年11月8日  
長野市地域包括ケア推進課

# 人口ピラミッドの変化(1990~2060年)

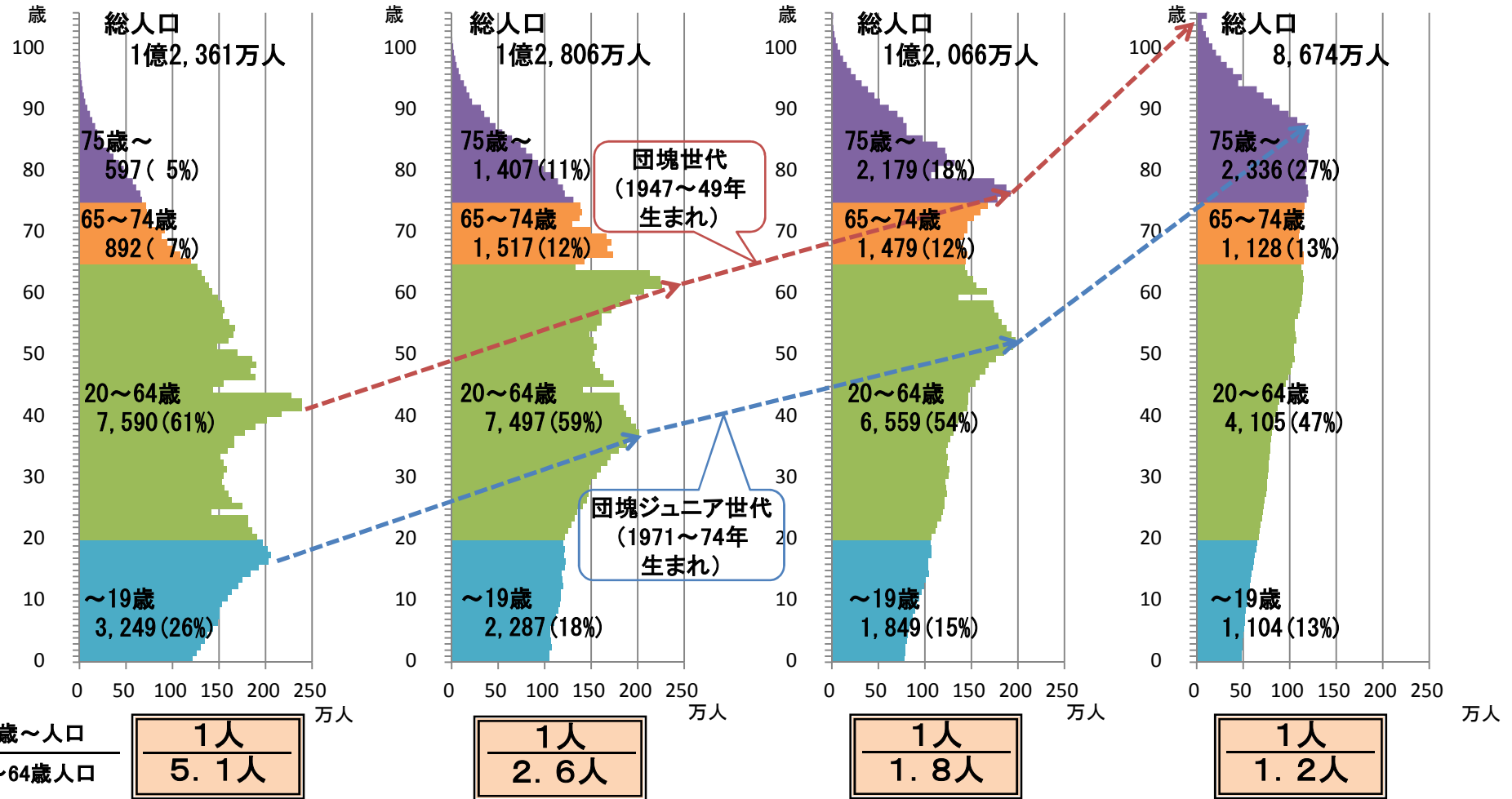
○ 日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定

1990年(実績)

2010年(実績)

2025年

2060年



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

# 長野市の高齢化率 **29.0%**

## ○ 長野市

・総人口 378,626人

・65歳以上人口 109,726人(高齢化率 29.0%)

・地区別にみると

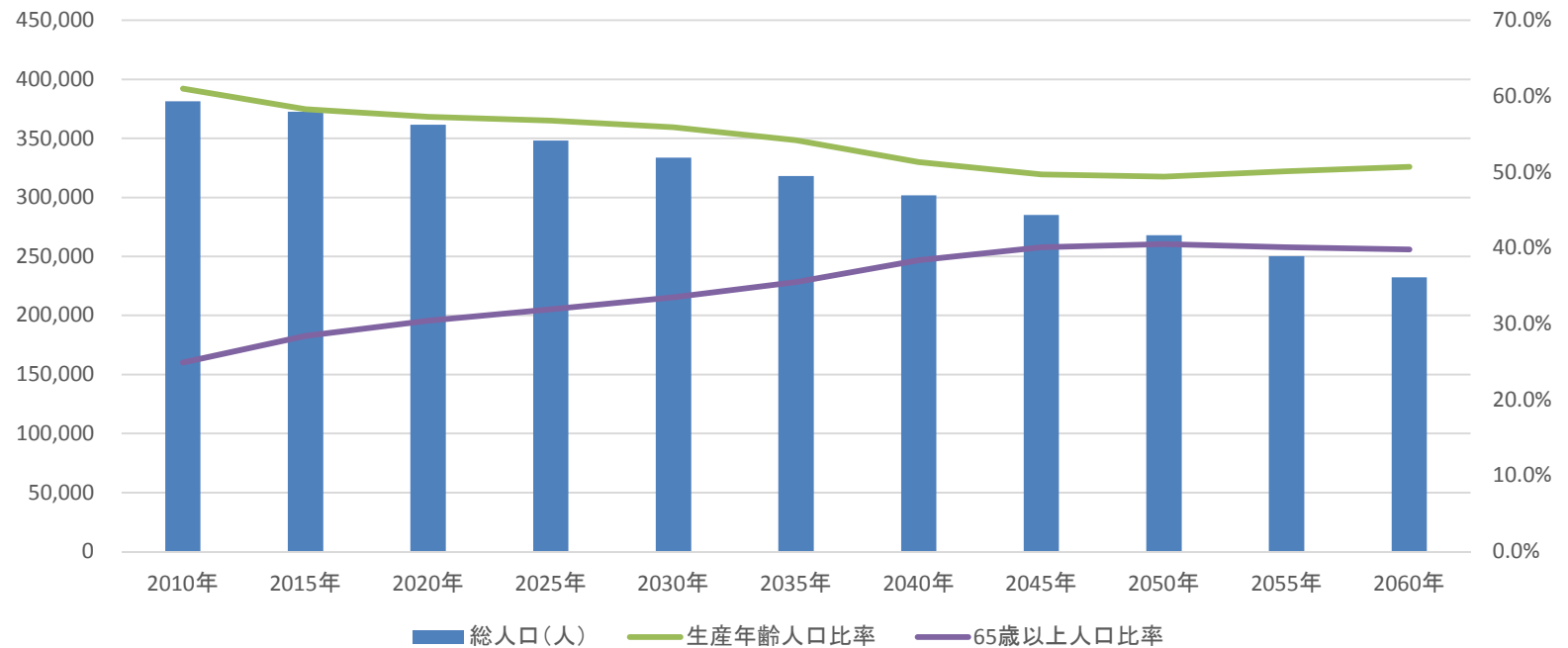
**22.1%**(古牧地区)~**58.2%**(鬼無里管内)

平成30年9月1日、長野市企画課データ



# 長野市の人口推移

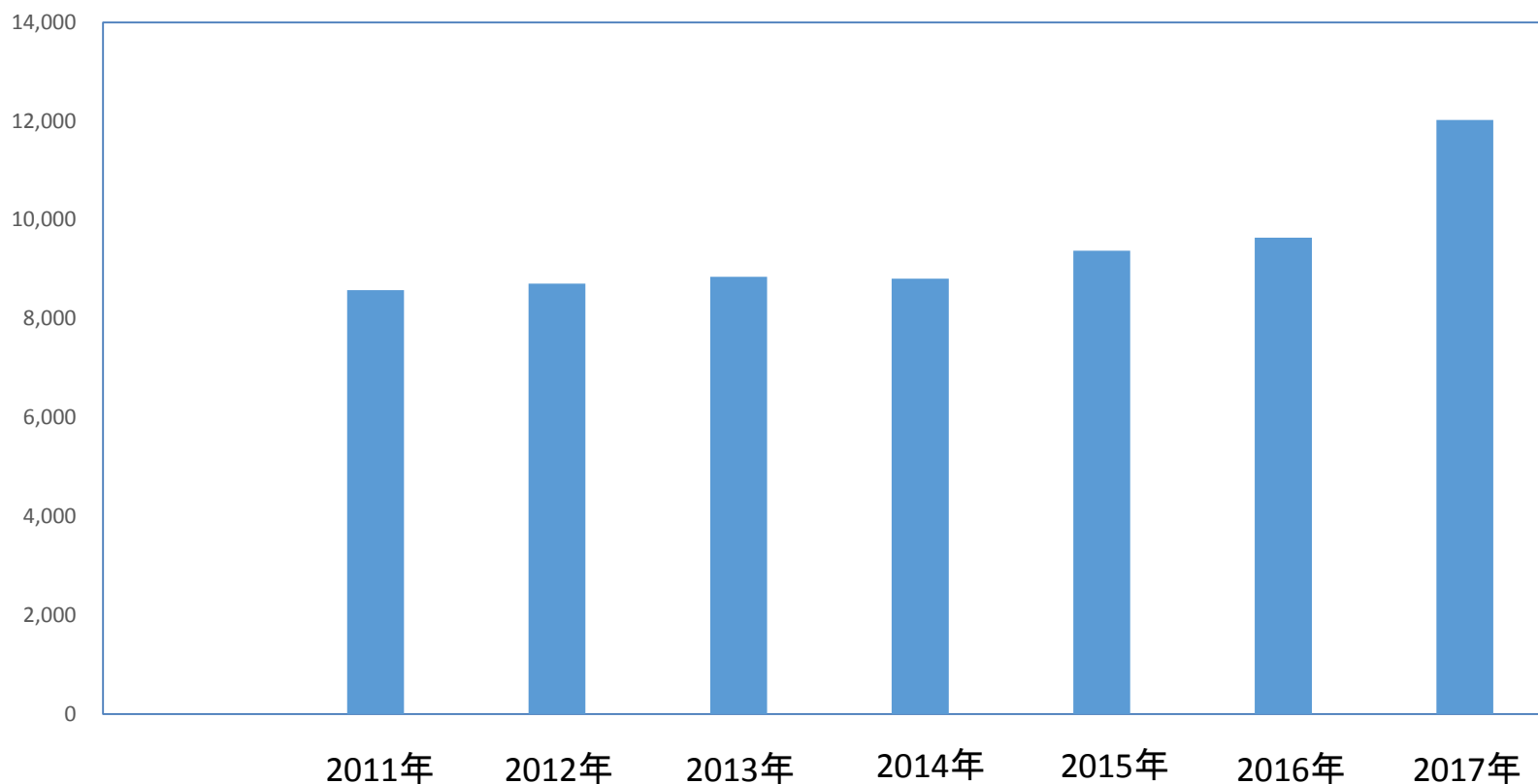
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	381,511	372,685	361,562	348,269	333,669	318,086	301,857	285,165	268,040	250,288	232,227
年少人口比率	14.1%	13.3%	12.2%	11.4%	10.6%	10.3%	10.3%	10.3%	10.1%	9.8%	9.6%
生産年齢人口比率	61.0%	58.3%	57.3%	56.8%	55.9%	54.2%	51.3%	49.7%	49.4%	50.1%	50.7%
65歳以上人口比率	24.9%	28.4%	30.4%	31.9%	33.5%	35.5%	38.4%	40.1%	40.5%	40.1%	39.8%
75歳以上人口比率	13.0%	14.6%	16.6%	19.3%	20.7%	21.5%	22.5%	24.1%	26.7%	28.0%	27.8%



# 長野市のひとり暮らし高齢者数

4

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
長野市	8,579	8,713	8,848	8,810	9,375	9,643	12,023



各年7月1日の高齢者状況比較表

## 社会の枠組みが大きく変化

人口減少・少子高齢化

働き手（生産年齢人口）の減少

核家族化・孤立化

認知症者の増加

非正規雇用・無年金者の増加

このような時代背景の中  
住民一人一人が、生きがいや役割を持って  
地域で暮らし続けるためには  
どのようにしていけば良いでしょうか

いつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることが出来るよう「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」の5つの要素が連携しながら、高齢者の暮らしを支える仕組み。

6

## 地域包括ケアシステムのイメージ



# 生活支援体制整備（検討会の設置状況） 7

## 1 検討会設置状況

平成30年9月末時点

状 況	地 区 数
設 置 済	18 地 区
準 備 中	6 地 区
調 整 中	8 地 区

\* 準備中は、本年度、準備会や勉強会などを継続して実施し、編成に向けて動いている地区

\* 調整中は、準備会等の設置に向けて、現在、地区内で調整を行っている地区



# 生活支援体制整備（支え合い活動計画の策定） 8

## 2 支え合い活動計画策定状況

平成30年9月末時点

策定済

5地区

第二地区 長沼地区 更北地区 七二会地区 鬼無里地区

## 3 検討会の活動状況

- ・平成30年度より、各地区の生活支援コーディネーターに対して、3カ月ごとに検討会（準備会・勉強会等も含む）の開催記録の提出を依頼している。

# 生活支援体制整備（検討会での議題・課題）9

## （1）検討会設置済地区での主な検討議題

- 検討会の目的・役割の確認
- 今年度の取り組み方針について
- 地域福祉懇談会開催に向けて
- 支え合い活動計画の策定について
- 研修会の開催について
- 住民フォーラム開催に向けて
- 介護予防クラブの推進について
- 支え合い地域づくりアンケートの報告
- 通いの場の検討について

## (2) 検討会設置済地区の主な課題

- 検討会構成員が団体長で、年度ごとに改選になってしまうため、継続性の確保が困難
- 福祉懇談会を実施しても、参加者が固定されており、多くの住民に参加してもらうためにはどうすればよいか
- 何を検討課題としてよいか分からない
- 検討会の開催頻度をどうしていくか
- 地域（字町単位）ごとの助け合いをどう進めていくか
- 介護予防運動をできる場所の確保

# 生活支援体制整備（検討会での議題・課題） 11

## （3）検討会未設置地区の主な課題

- 構成員をどう集めていくか
- 検討会の立ち上げまでの手順
- 支え合い活動計画について
- 参加者が、取り組みに対して理解してもらえるか不安

## 4 きらめき隊員が感じている地域の主な課題

- 担い手の人材不足・組織づくりの困難さ(6地区)
- 住民への周知・住民の関心の低さ(6地区)
- 地区役員の制度への理解不足(5地区)
- 地区ごとの課題の違い(4地区)
- 活動場所や交通手段の確保(4地区)
- 地区役員の負担感(3地区)
- 参加者の固定化(3地区)
- 地域福祉ワーカーの業務量の増大(2地区)

# 生活支援体制整備（検討会での議題・課題） 13

## 5 第1層生活支援コーディネーターの取り組み

### (1) 現状

- ・ 第2層検討会の運営支援
- ・ 準備会・勉強会への協力、検討会の立ち上げ支援
- ・ 未設置地区への働き掛け
- ・ 地域福祉ワーカーへの研修の開催、情報の提供

## (2) 地区支援への課題

- 設置済地区において、地域への働き掛けができる検討会をどう運営していくか
- 準備中地区、未設置地区への設置に向けた支援、特に事業への理解をどう図っていくか
- 地域のニーズ・課題を把握、地域の実情に応じた資源開発を進める手法
- 各地区が把握・開発した社会資源の集約と情報提供
- 地域福祉ワーカーの業務に対する負担感を、研修内容も含めてどう支援をしていくか
- 移動支援等に関する地区検討会からのニーズの集約

## （3）今後取り組んでいきたいこと

- 住民に向けた啓発活動
- 地域福祉ワーカーが地域で使えるように、わかりやすいチラシ・パンフレット等の作成
- 市のホームページでの情報提供